

# 木と虫に関する技術と知財

弁護士知財ネット農水法務支援チーム

弁護士 辻 淳子<sup>1</sup>

## 第1 はじめに

日本の農林水産分野の技術は高く評価され、その強みが広く認められているところである。2024年6月に制定後25年を経て初めて改正された食料・農業・農村基本法では、農業の生産性及び農産物の付加価値のさらなる向上のための施策の中心として「知的財産の保護及び活用の推進」が位置づけられ（同法22条、30条、31条）、2025年6月策定の農林水省知的財産戦略2030では、農林水産・食品分野での①知的財産の戦略的な保護・活用及び持続的な創出に向けた枠組みの整備と活用推進、②知的財産マネジメントの強化が2本柱として示されている。

本稿では、農林水産関係の公表情報の中から、筆者の興味をひいた木と虫についての最近の技術をご紹介します、関連すると思われる知財情報にも触れてみたい。

## 第2 木に関する技術

### 1 スマート農業技術との相性も良好：りんご新品種「紅つるぎ」

#### (1) 「紅つるぎ」の特徴

約3300名の職員を擁し、農業・食品分野における日本最大の研究機関である国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下「農研機構」）<sup>2</sup>は、およそ30年の育成期間をかけて、枝が横に広がらないコンパクトな樹姿となるカラムナー性を有し、高糖度で糖酸のバランスが良く既存の主要品種（つがる、シナノスイート等）並みに食味が優れるりんごの新品種「紅つるぎ」（べにつるぎ、系統名：盛岡74号）を開発した<sup>3</sup>。

カラムナー性と高糖度・良食味を両立した品種の開発は国内初とのことで、この技術は2024年の農業技術10大ニュース<sup>4</sup>にも選出されている。

一般の分枝型のりんごと異なり、カラムナー性を有する紅つるぎでは、直立した樹を横一列に配置することにより、りんごの生る面を壁のような平面に形成することが可能となる。果実の管理や収穫等の多くの作業の省力化が実現でき、作業動線が単純になることで自動収穫機を用いたスマート農業が容易となるため、規模拡大・収益向上への貢献が期待されている。

1 辻法律特許事務所、日弁連知的財産センター農水法務支援PT（プロジェクトチーム）委員、大阪弁護士会所属

2 松谷洋平「農研機構の知財戦略」Japio YEAR BOOK 2022 162頁。

3 農研機構プレスリリース（2024年6月11日）。[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nifts/163351.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/163351.html)

4 農林水産省農林水産技術会議HP参照。毎年、1年間に公表された農林水産分野の研究成果につき、内容と社会的関心の高さを基準として選定。